YBHD NEWS No.37

平成26年2月

株主通信

NEXT 100年の責任。

つなぐ、むすぶ、広げる、未来へ

The Next Perspective

YBHD

株式会社 横河ブリッジホールディングス

証券コード：5911

株主の皆様へ

To Our Shareholders

代表取締役社長

吉田 明

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、株主通信「YBHD NEWS」第37号をお届けいたします。

我が国経済につきましては、昨年は株高・円安で歴史的な値動きの年でした。日経平均株価が年間57%上げで41年ぶりの上昇率を、円は対ドルで34年ぶりの下落率を記録しました。これは日銀による大規模な金融緩和や政府が進める経済政策などの効果により、景況感が好転したものと思われます。今年もこの流れが続くことを期待し、いままでの長引くデフレからの脱却と景気の本格的な回復になることを祈ります。

また、平成26年度国家予算案では公共事業費が2年連続の増額になる見込みです。特に巨大地震に備えたインフラの防災・減災対策、高度成長期に整備したインフラの老朽化対策、2020年開催の東京五輪に備える3大都市圏環状道路整備や成田と羽田の首都圏空港の機能強化、東日本大震災の復興を加速させる住宅再建・町づくり等が大きな施策です。何れも当社グループに密接に関連する事業ばかりであり、またオリンピック関連では国立競技場の建て替え等があり、リニア中央新幹線関連でもトンネルや橋梁で当社グループの技術が貢献できると思います。

このような中、昨年4月より第3次中期3ヵ年経営計画がスタートしました。具体的には、「社会インフラ整備への貢献」「エンジニアリング関連事業の強化」「筋肉質で強固な企業基盤に向けた整備」「新規事業開発へ着手」の4項目を事業戦略として取り組み、グループが一丸となって中期経営計画達成に向け注力しております。

当社グループを取り巻く事業環境は先行きの明るさが見え始めておりますものの、新設橋梁事業の縮小、保全橋梁事業の低採算性、東京五輪後の不透明さ等、依然として厳しい状況が続くものと思います。

今後も役員・従業員一同、株主の皆様のご期待に応えられますよう一層の努力をしてまいりますので、引き続き倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年2月

平成26年3月期第3四半期決算の概況

Business Overview

平成26年1月29日に、平成26年3月期第3四半期累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）の決算短信を公表いたしましたので、その概況につきましてご紹介いたします。

連結経営成績（累計）

	平成26年3月期第3四半期	平成25年3月期第3四半期
売上高	62,148 百万円	64,117 百万円
営業利益	4,435 百万円	2,263 百万円
経常利益	4,498 百万円	2,346 百万円
四半期純利益	2,526 百万円	1,136 百万円

当社グループの当第3四半期累計期間（平成25年4月1日～平成25年12月31日）の総受注高は、同期間として過去最高の691億9千万円（前年同期比8.6%増）となりました。セグメント別の受注高といたしましては、橋梁事業447億8千万円（同6.1%減）、エンジニアリング関連事業224億円（同51.9%増）、先端技術事業20億1千万円（同55.8%増）となりました。

決算面につきましては、当第3四半期累計期間の売上高は621億4千万円（同3.1%減）、営業利益は44億3千万円（同96.0%増）、経常利益は44億9千万円（同91.7%増）、四半期純利益は25億2千万円（同122.3%増）となり、同期間としての営業利益、経常利益、四半期純利益はそれぞれ過去最高となりました。

セグメント別の売上高といたしましては、橋梁事業407億6千万円、エンジニアリング関連事業188億7千万円、先端技術事業18億9千万円、不動産事業6億2千万円となりました。橋梁事業は、一部大型工事の工程のずれ込み等もあり売上高は伸び悩みましたが、セグメント利益は29億7千万円（同73.4%増）と大幅な増益となりました。エンジニアリング関連事業は、システム建築事業を中心に好調な業績を継続することができ、セグメント利益は15億9千万円（同51.4%増）となりました。先端技術事業は、前年度下期からの受注の回復により、セグメント利益は2億7千万円（前年同期は1億6千万円の損失）となりました。

平成26年3月期の連結業績予想（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

	平成26年1月29日発表	平成25年10月28日発表
売上高	90,000 百万円	92,000 百万円
営業利益	5,600 百万円	5,600 百万円
経常利益	5,600 百万円	5,600 百万円
当期純利益	3,700 百万円	3,400 百万円
1株当たり当期純利益	85円 84銭	78円 75銭

Topics 1

特集 東日本大震災における YBHDグループの対応とその後について

『東日本大震災』発生から今年で約3年が経ちました。被災地の復興に向けた『復興道路』『復興支援道路』等は工事段階に移行され、河川沿岸堤防の復旧工事、公共岸壁工事などの基幹インフラも順調に進みはじめています。今後、住宅・工場等の再建や高台移転による復興まちづくりの対策が本格的に講じられ一日も早く復興を実感できるようにと願っています。そして今回、当社グループが関わりました震災の復旧等につきましてご報告いたします。

橋梁関係について

■二十一浜橋仮橋工事

仮橋施工前（H23.3）

仮橋施工直後（H23.4）

現在の様子（H25.12）

H23.6発行の株主通信に掲載しました二十一浜橋仮橋の推移です。現在は周りのがれきも片付いており、近日中に新橋（コンクリート橋）の発注が行われます。

■仙台東部道路災害復旧工事

仙台東部道路では被災した約4kmにわたる高架橋の支承が破断しましたが、落橋防止装置により落橋を免れました。また震災直後には敷鉄板で応急復旧し、本復旧のために伸縮装置を取替えるのが今回の工事です。高速道路を全面通行止めの集中工事（72時間連続）という状況下において、短時間で多箇所同時取替施工を計5回行いました。取替事例が少なく、構造が複雑であり、震災の影響による局部的な変形等計画、施工の対応に非常に苦労しました。

なお、本工事は東日本高速道路株式会社の事務所長表彰を受賞しました。

施工中

復旧工事完了後の集合写真

現在、当社グループといたしましては復興関連道路を2件（矢本大橋（2径間連続箱桁橋、橋長：126.7m　鋼重：570t）・中野地区上部工（3径間連続鋼箱桁橋、橋長：103.5m　鋼重：333.5t））受注しており、矢本大橋は竣工し中野地区上部工は現在架設中です。

建築関係について（システム建築）

建設前（H24.4）

建設後（H24.7）

震災被害が深刻であった岩手県大槌町。津波で被害を受けた工場跡地に水産加工工場を再建しました。建設当時はインフラ復旧もままならず、それに加えて復興関連の補助金申請に時間を要しましたが、引き合いから半年で無事に完成させることができました。現在復興については震災被害の比較的少ない内陸部において工場等の建設が進んでいます。一方では沿岸部については津波の被害の影響がいまだに残っており、がれき等の処理がまだ追いついていないのが現状です。

Topics 2 横河ブリッジ大阪工場で体験学習

現在、大谷橋上部工事（近畿自動車道紀勢線）を施工しており、現場が近いというご縁で、平成25年11月29日に和歌山県田辺市立会津小学校の5年生約80名が、学校の社会科学習の一環として株式会社横河ブリッジ大阪工場にて体験学習を行いました。

当日は、「橋ができるまで」の説明を行い、3つのグループに分かれて下記のテーマを順番に学習して、お土産にメッキボルトと明石海峡大橋のジグソーパズルをプレゼントしました。

株式会社横河ブリッジ大阪工場全景

「橋を学ぶ」……橋のペーパークラフトの作成をとおして橋の構造等について学んでもらいました。

「橋の大きさを体感する」……仮組立中の桁や工場内での溶接の様子を見学してもらいました。

「橋の製作・架設を体感する」…実際のハイテンボルトを使用してボルトの本締体験をしてもらいました。

ペーパークラフトは、橋の設計やしくみについてくわしく知ることができました。

（孔（あな）明け）

鉄板を切ったり、穴をあけたり、削ったりしていておもしろかったです。

（工場内設備）

工場の大きさにあっとうされました。例えば、工場やクレーンの大きさや溶接の光がすごかったです。

（溶接）

ようせつ工場ではいろいろな仕事をしていたので、かっこいいなぁと思いました。

（仮組立）

すぐ近くで見ると大きくてびっくりしました。

（検査）

工場に本物の橋があって不思議でした。

（ボルト締め）

ボルトをしめつける機械は重かったです。ボルトは社会科見学の思い出の品としてとっておこうと思います。

横河ブリッジの皆さんありがとうございました。

当社グループでは、「社会公共への奉仕と健全経営」を経営理念としており、さまざまな形で地域社会貢献活動を行っています。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金交付株主確定日	毎年3月31日、なお、中間配当を行う場合は、毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 〒100-8233 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部 電話 0120－782－031（フリーダイヤル）
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	http://www.ybhd.co.jp/

■YBHDグループ

株式会社 横河ブリッジホールディングス
グループ全体の経営管理

株式会社 横河ブリッジ
橋梁・橋梁関連製品・精密機器製造

横河工事株式会社
土木・建築・保全

株式会社 横河システム建築
システム建築・開閉式建築システム・環境

株式会社 横河住金ブリッジ
橋梁・橋梁関連製品・セグメント

株式会社 楢崎製作所
橋梁・水処理・環境製品・鉄構製品

株式会社 横河技術情報
情報処理サービス・ソフトウェア開発

株式会社 横河ニューライフ
不動産管理・情報システム・人材派遣

株式会社 ワイ・シー・イー
橋梁等構造物の総合エンジニアリング

上場株式等の配当等に係る10%（所得税7%住民税3%）軽減税率の廃止について

2014年1月1日から上場株式等の配当等に係る10%軽減税率（所得税7%、住民税3%）は廃止され、**本来の税率である20%（所得税15%、住民税5%）となりました。**

また、2013年1月1日から2037年12月31日までの間（25年間）は、「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」（平成23年法律第117号）が施行されており、**その所得税額に対して2.1%が「復興特別所得税」として課税されています。**
そのため、株式等の配当等もその源泉所得税を徴収する際に「復興特別所得税」が併せて徴収されています。

■上場株式等の配当等に係る源泉徴収税率について

配当等の支払開始日	2014年1月1日～2037年12月31日	2038年1月1日～
上場株式等の配当等の税率	20.315%　[内訳] 所得税（15%）＋※復興特別所得税（0.315%） 住民税（5%）	20%　[内訳] 所得税（15%） 住民税（5%）

※15%×復興特別所得税率2.1%＝0.315%
（2014年1月時点の情報をもとに作成しています。）

◎上場株式等の配当等の源泉徴収に係るご留意事項

- 個人の株主様で発行済株式総数の3%以上の株式等をご所有される場合の所得税率は、20.42%（所得税20%＋※復興特別所得税0.42%）となります。
  ※20%×復興特別所得税率2.1%＝0.42%
  なお、住民税につきましては、別途お手続きが必要となります。
- 配当等をお受け取りになる方が、法人の場合には住民税は課税されません。

◎「復興特別所得税」に係るご留意事項

- 所得税が非課税または免除となる場合や租税条約の適用により国内法に規定する税率以下となる場合につきましては、復興特別所得税は課税されません。
- 配当金等のお受け取り方法が株式数比例配分方式の場合の税額等につきましては、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

その他詳細につきましては、所轄の税務署等へご確認ください。

※表紙の写真は矢本大橋（宮城県東松島市）
東日本大震災の復興に向けた『復興道路』で株式会社横河ブリッジが受注いたしました。こちらは2車線の道路を4車線にする工事です。2径間連続箱桁橋、橋長：126.7m　鋼重：570t

株式会社 横河ブリッジホールディングス
〒108-0023　東京都港区芝浦四丁目4番44号　TEL. 03-3453-4111（代表）　http://www.ybhd.co.jp/

VEGETABLE OIL INK